

2014年4月16日 全8頁

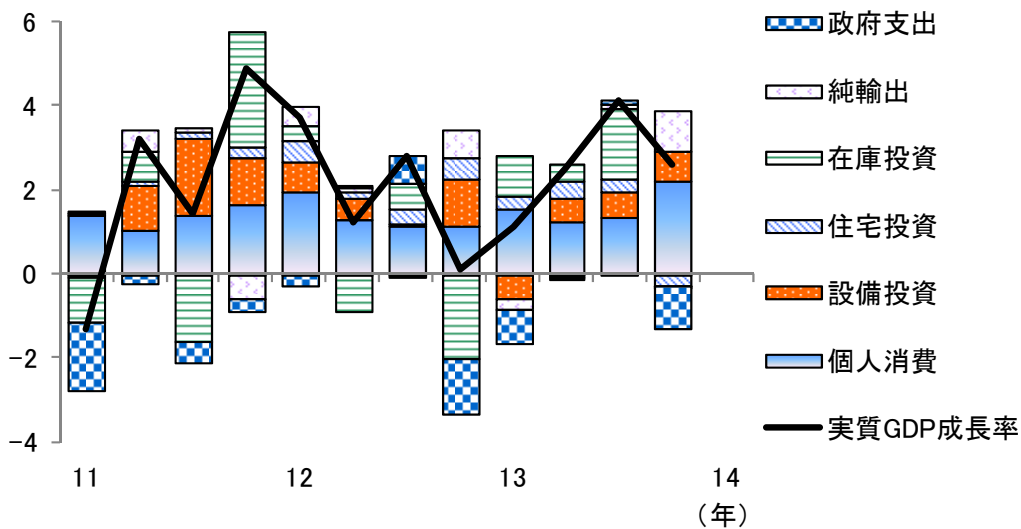
アメリカ経済グラフポケット(2014年4月号)

2014年4月15日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



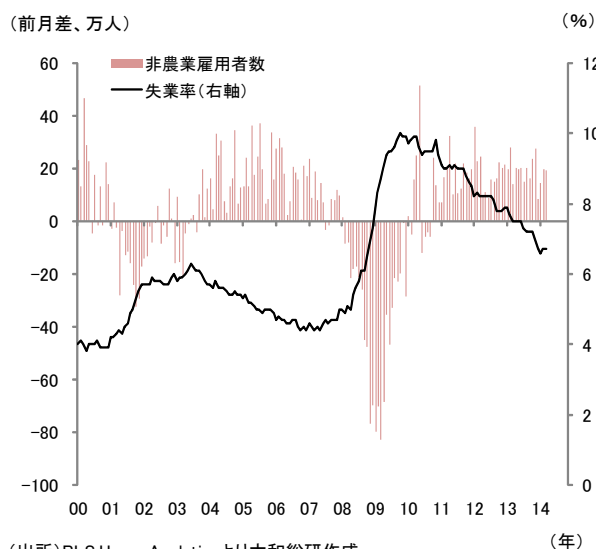
(前期比年率、%、%pt)	2012				2013			
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
国内総生産	3.7	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5	4.1	2.6
個人消費	2.9	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8	2.0	3.3
設備投資	5.8	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.7	4.8	5.7
住宅投資	23.0	5.7	14.1	19.8	12.5	14.2	10.3	-7.9
政府支出	-1.4	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4	0.4	-5.2
輸出	4.2	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.0	3.9	9.5
輸入	0.7	2.5	0.5	-3.1	0.6	6.9	2.4	1.5
寄与度								
個人消費	2.0	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2	1.4	2.2
設備投資	0.7	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6	0.6	0.7
住宅投資	0.5	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3	-0.3
在庫投資	0.4	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4	1.7	0.0
政府支出	-0.3	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1	0.1	-1.0
輸出	0.6	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.0	0.5	1.2
輸入	-0.1	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1	-0.4	-0.2

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

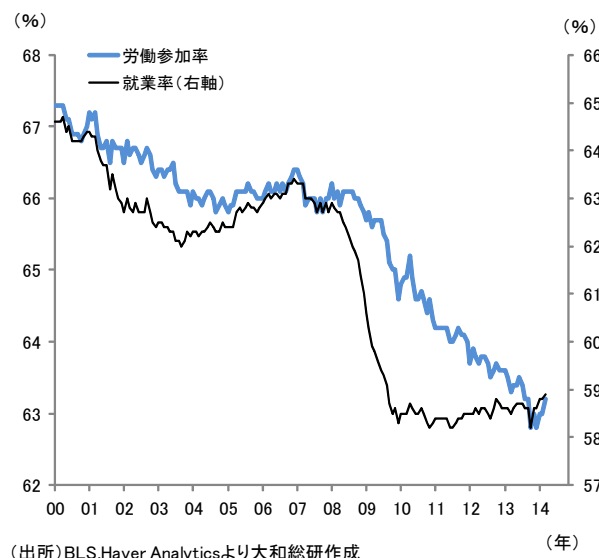
雇用環境¹

- ◆ 3月の失業率は6.7%で、前月と同水準であった。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差19.2万人増となり、悪天候の影響が和らいで雇用者数の増加ペースが回復しつつある。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は18.8万人増で、前月(同18.3万人増)から僅かに増加幅が拡大した。

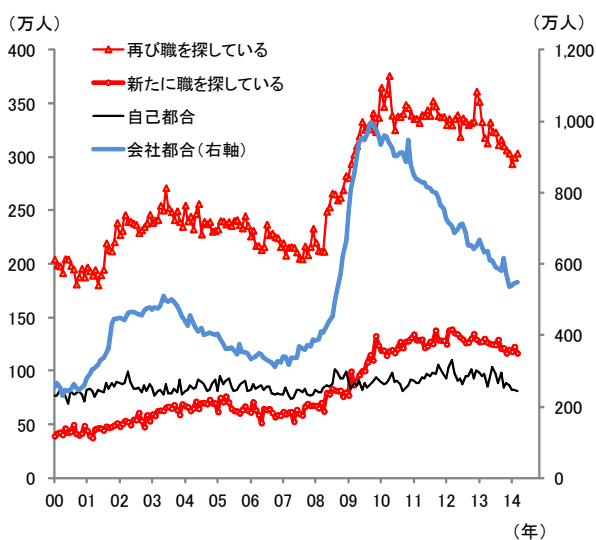
非農業雇用者数と失業率



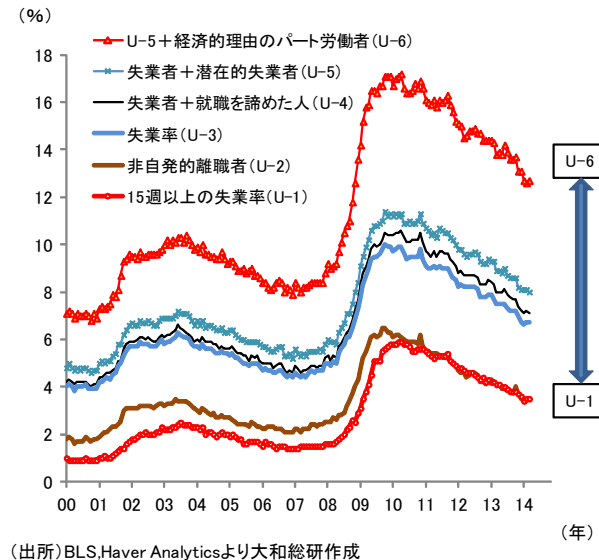
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

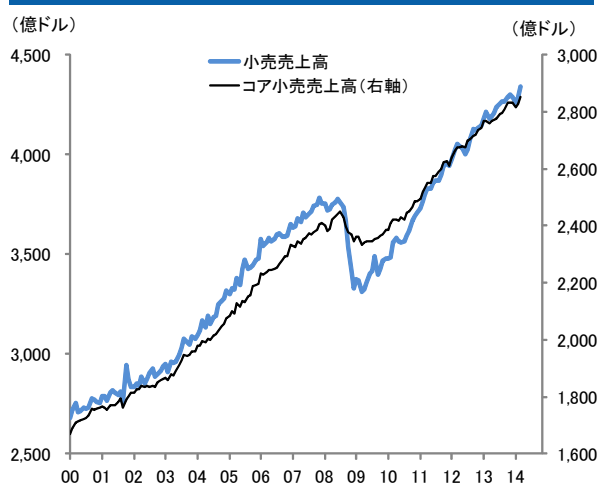


¹ 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「雇用者数の増加ペースは再び加速」(2014年4月7日) 参照。 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20140407_008401.html

個人消費

- ◆ 3月の小売売上高は前月比1.1%増で、2012年9月以来最大の増加幅となった。悪天候の影響が和らぎ、自動車ディーラーやデパートを含む一般小売店など、幅広い業種の売上高が増加した。コア小売売上高も同0.9%増加した。
- ◆ 4月のロイター/ミシガン大消費者センチメント（速報値）は82.6に前月から上昇した。現在の経済環境の改善が示されたことなどから、消費者マインドは2013年7月以来、9ヵ月ぶりの高水準となった。
- ◆ 3月の自動車販売台数は前月比6.9%増と大幅に増加し、年率換算では1,640万台であった。悪天候による販売減の反動などによって、4ヵ月ぶりに1,600万台を超えた。

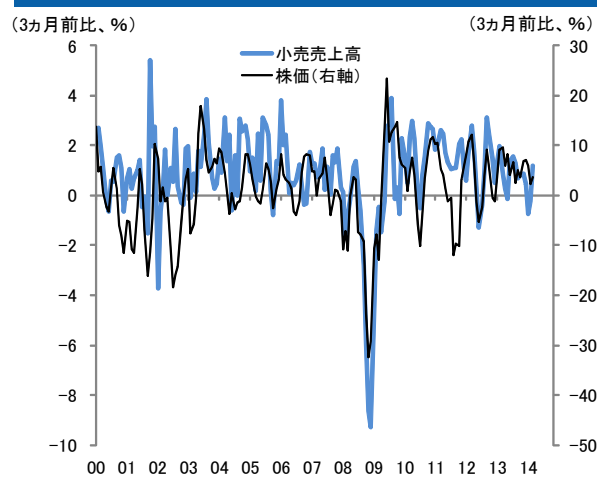
小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、
建材・園芸除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

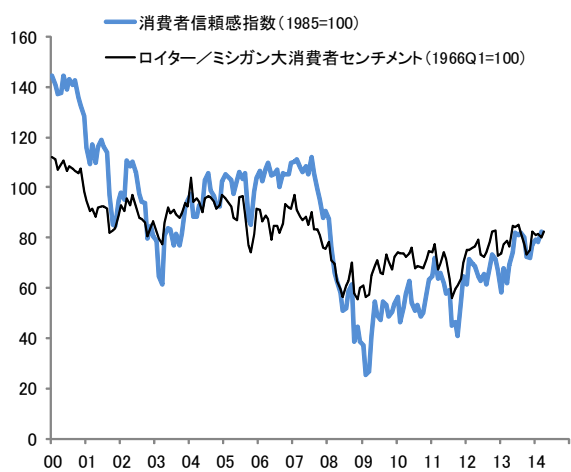
消費と株価



(注) 株価はWilshire5000。

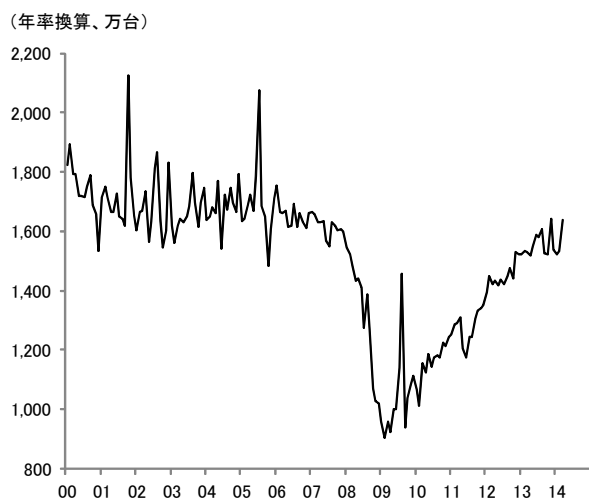
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

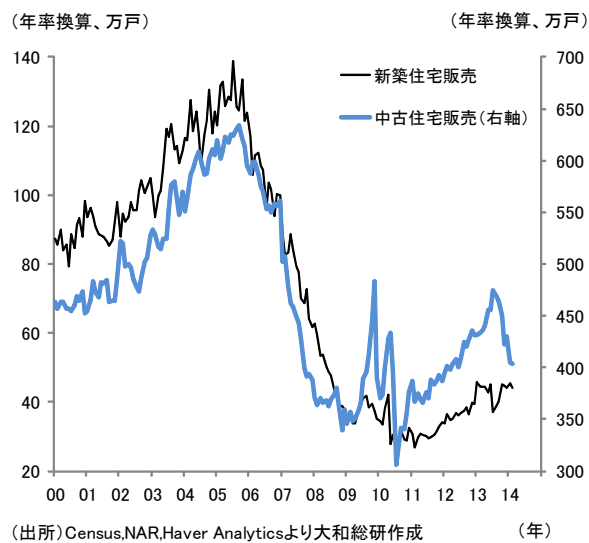


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

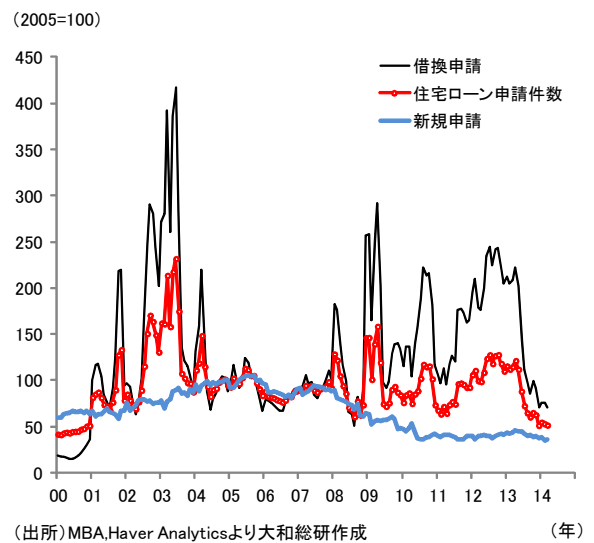
住宅市場

- ◆ 2月の新築住宅着工は、前月比0.2%減で年率換算は90.7万戸であった。悪天候などが影響し、3ヵ月連続で減少した。
- ◆ 2月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比0.2%減の年率換算404.0万戸であった。悪天候に加え、販売物件が不足し、2012年6月以来の低水準となった。
- ◆ 2月の新築住宅販売は前月比3.3%減となり、年率換算で44.0万戸であった。悪天候と在庫不足などが影響し、2013年9月以来の低水準となった。
- ◆ 1月の住宅価格は引き続き上昇。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は、2008年6月以来の高水準になった。

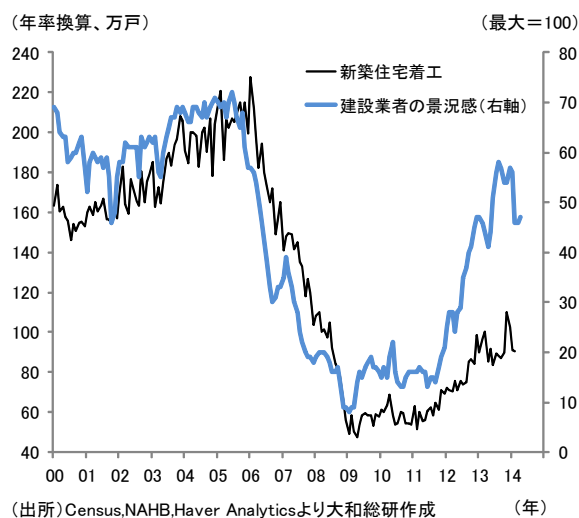
住宅販売（一戸建て）



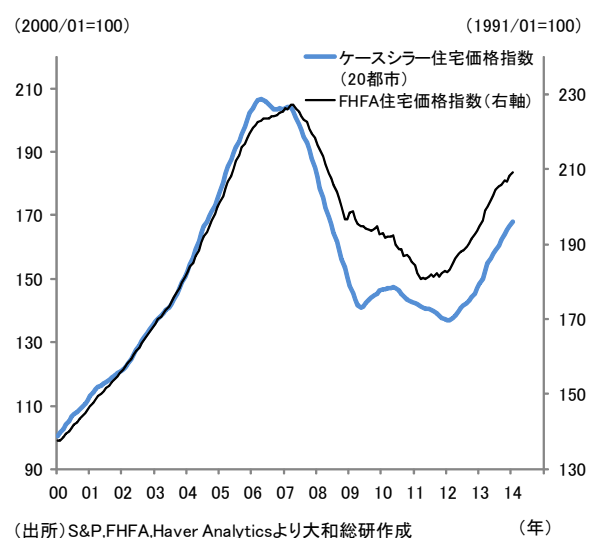
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



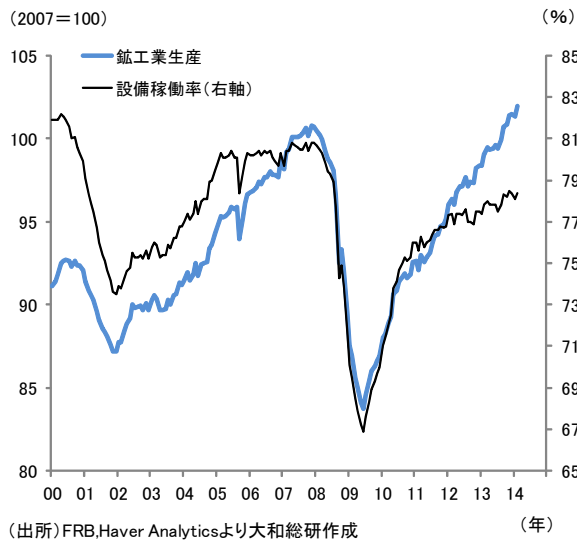
住宅価格



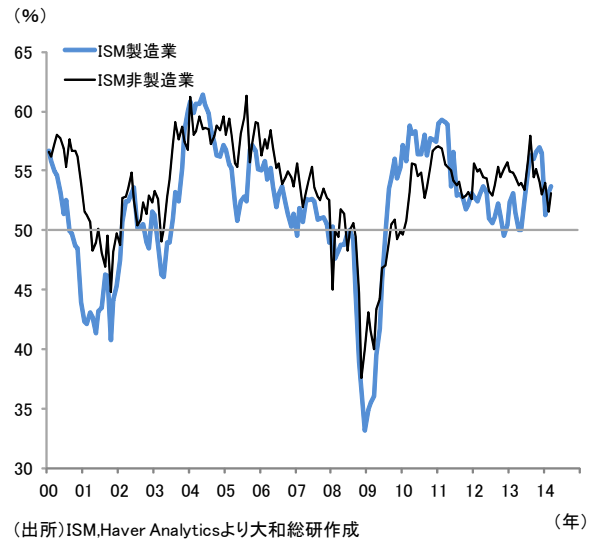
企業動向

- ◆ 2月の鉱工業生産指数は前月比0.6%上昇した。内訳の製造業が同0.9%上昇し、2012年11月以来の上昇幅となった。
- ◆ 2月の国防・民間航空機を除く資本財受注は、前月比1.4%減となった。
- ◆ 3月のISM製造業指数は前月比0.5%ポイント上昇し、景気の拡大・縮小の分岐点である50%を上回った。非製造業指数も同1.5%ポイント上昇し、50%を上回った。

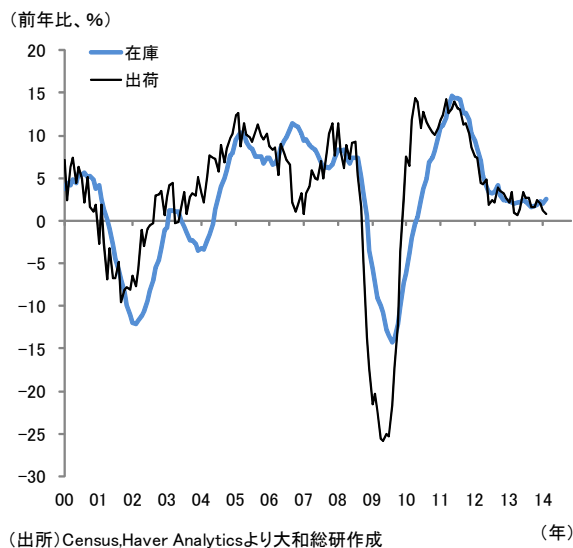
鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



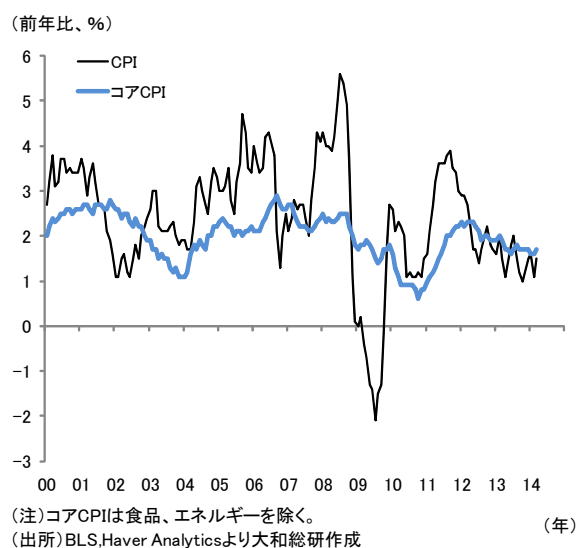
耐久財受注



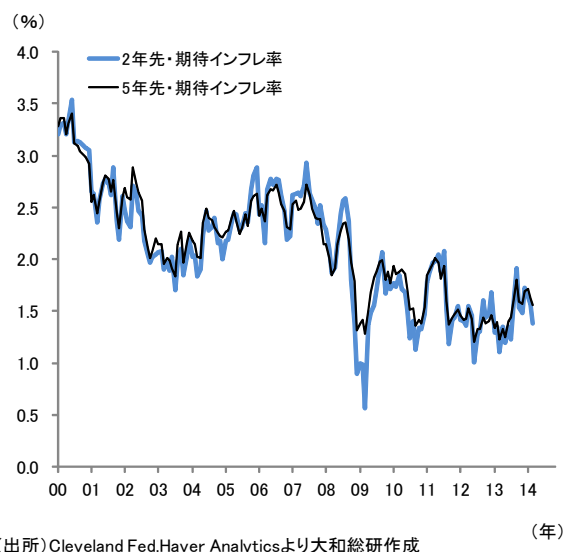
物価動向

- ◆ 3月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.5%増で、コアCPIも同1.7%増と、それぞれ前月から伸び幅が拡大した。
- ◆ 3月末のWTI原油先物価格は101.58ドル/バレルと、2月末の102.59ドル/バレルから低下した。

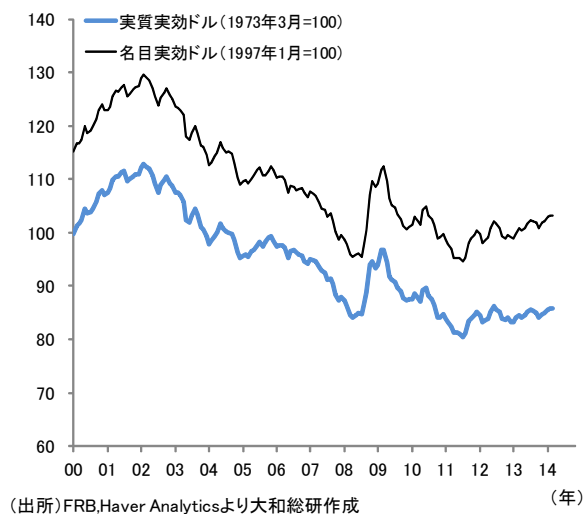
消費者物価指数



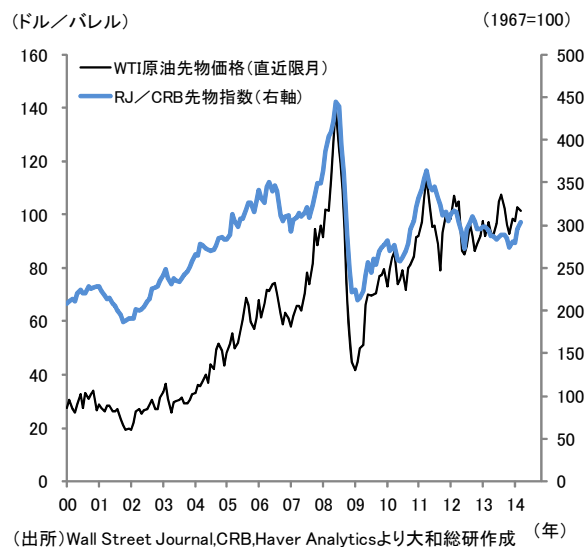
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



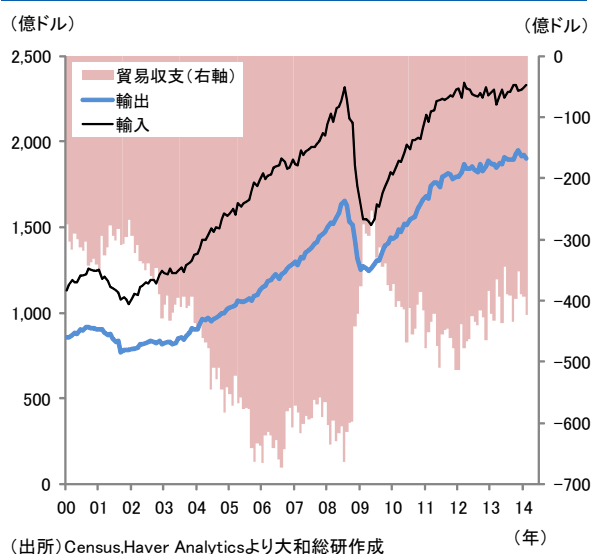
コモディティ価格



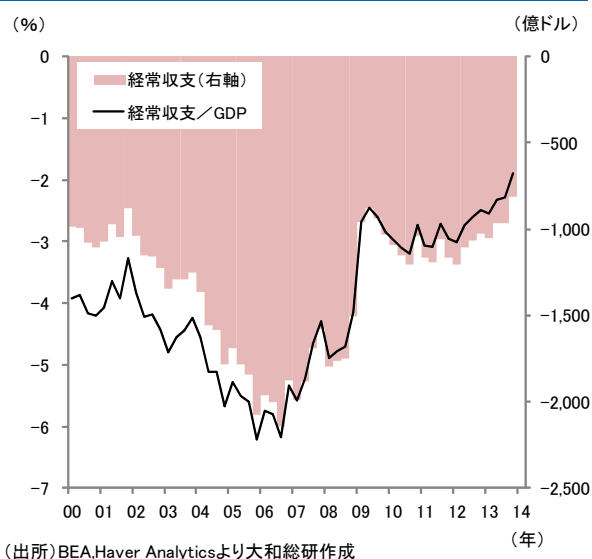
輸出入・経常収支

- ◆ 2月の貿易収支（財・サービス）の赤字幅は、前月比7.7%増の423億ドルの赤字に拡大した。
- ◆ 輸出が前月比1.1%減少し、輸入は同0.4%増加して、貿易赤字幅が拡大した。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比6.2%増で、日本、欧州向けの輸出も増加し、それぞれ同5.7%増と同4.7%増となった。輸入は、欧州からの輸入が増加し、前年比4.2%増であった。一方、中国からの輸入は同6.0%減少し、日本からの輸入も同3.5%減であった。日本からの輸入は、5ヵ月連続で前年比マイナスとなった。

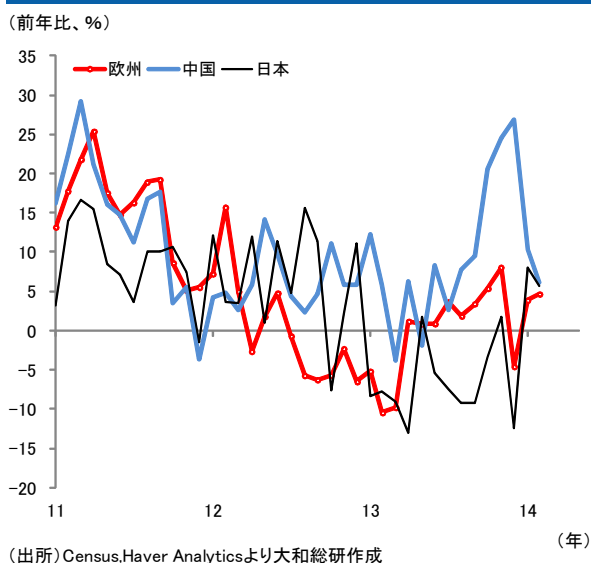
貿易収支動向



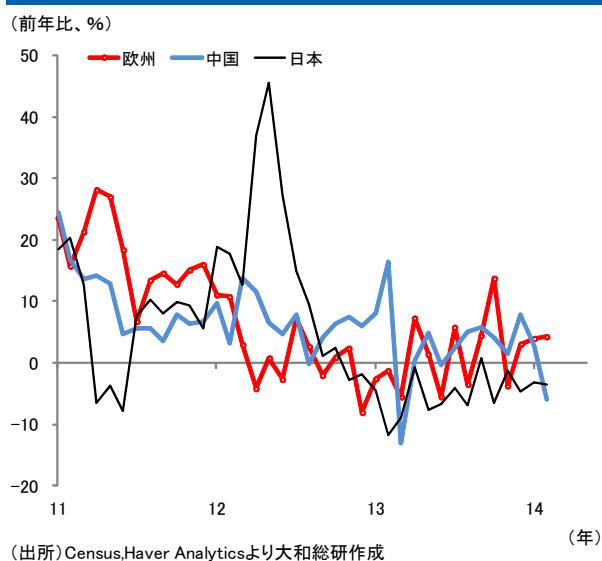
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



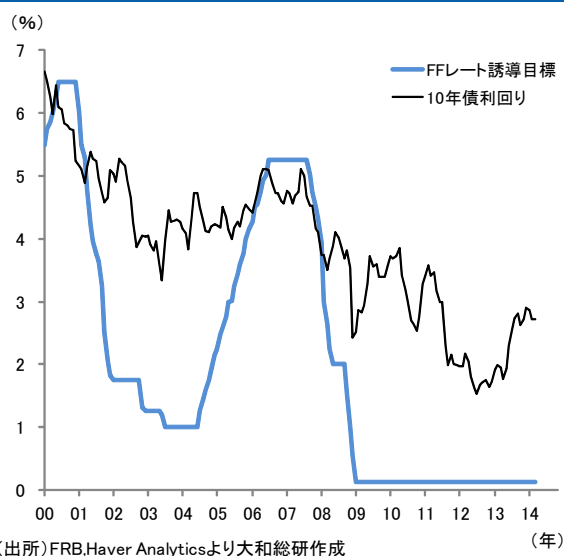
国・地域別輸入動向



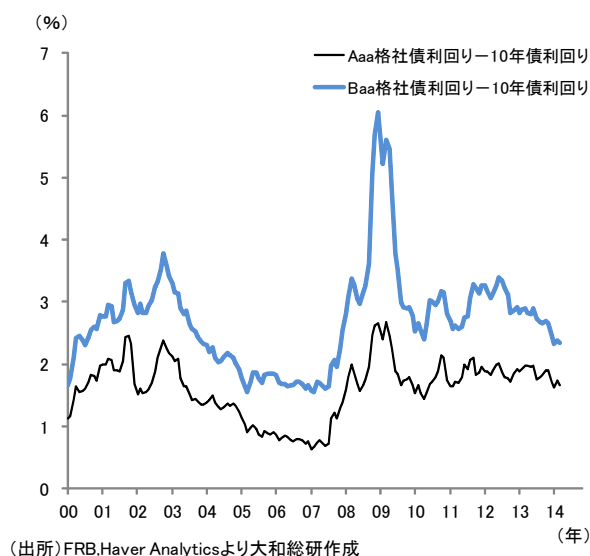
金融・財政

- ◆ 3月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.72%であった。2013年末より低い水準になっている。
- ◆ 3月のFOMCにおいて、追加的なQE3（量的緩和第3弾）の縮小が発表され、買い入れ額は550億ドルとなる。FRBの資産残高はQE3を受けて増加が続いており、直近の4月9日の週平均が約4兆2,800億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、赤字幅の縮小が続いている。赤字額が最大時であった2010年2月の3分の1程度まで減少し、2008年9月のレベルまで回復している。

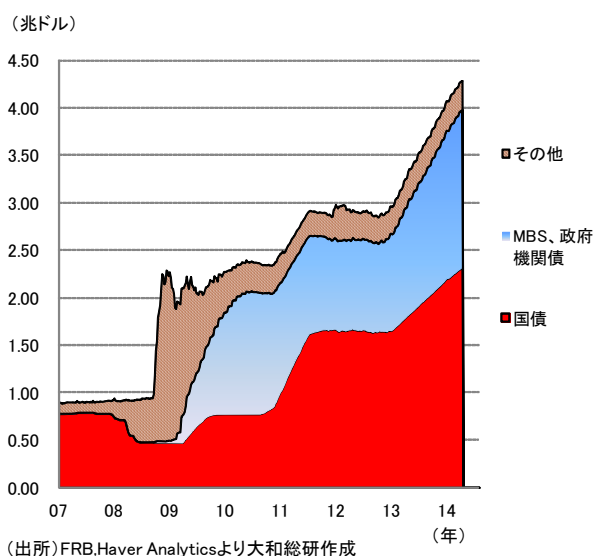
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

